

1 竜胆瀉肝湯の代替処方として

黄連解毒湯 + 猪苓湯が奏効した2例

札幌医科大学 泌尿器科

田中 俊明、舩森 直哉

札幌医科大学泌尿器科では、北海道内の地域病院へ常勤医を派遣しているほか、非常勤での出張外来を多数おこなっている。このような地域病院での非常勤出張医による泌尿器科外来において、蓄尿症状、排尿症状、尿路不定愁訴などを示す患者に対して漢方薬が多く処方されており、比較的高い効果や満足度が得られ、有用性が高いことを、第38回泌尿器科漢方研究会学術集会で報告した。しかし、薬剤の採用状況は病院によって異なり、処方が不可能な漢方薬も多い。特に、竜胆瀉肝湯は泌尿器科領域において汎用性の高い方剤であるが、採用されている病院、医院は限られているのが現状である。今回、竜胆瀉肝湯の採用がない病院での外来において、代替薬として黄連解毒湯+猪苓湯を処方し、良好な結果が得られた症例を経験したので報告する。

症例1：81歳、男性。中間証。食欲は良好。前立腺肥大症にて10年前から薬物療法を受けており、3か月前からタダラフィルを処方されていた。2~3か月前より、夜間に陰茎根部に「ジーンとする感じ」があり、この症状は特に夜間に強く、不眠を訴えていた。検尿で異常なく、理学所見でも陰茎、前立腺に異常を認めなかった。黄連解毒湯2包+猪苓湯2包分2を処方したところ、服用2日目以降には症状が完全に消失した。

症例2：80歳、男性。実~中間証。食欲は良好。筋層非浸潤性膀胱癌に対してTUR-BTを施行後2週間が経過していたが、排尿時痛が持続し、イライラした様子で苦痛を訴えていた。膿尿を認めるものの、術後相当と考えられた。アセトアミノフェンに加え、黄連解毒湯2包+猪苓湯2包分2を処方した。後日結果が判明した尿培養は陰性であった。服用開始から2週間後の再診時に確認したところ、症状はほぼ消失していた。服薬継続のままBCG膀胱内注入療法を開始し、導入療法6回を完遂した。

竜胆瀉肝湯は黄連解毒湯+四物湯を基本とした方剤であるが、今回は排尿症状を有する患者であったことから、黄連解毒湯に併せて、四物湯ではなく利尿作用の強い猪苓湯を使用した。良好な反応が見られており、竜胆瀉肝湯の採用がない状況においては、試みるべき処方と考えられた。